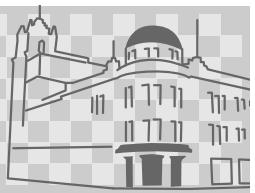


特集

# はこまち対談

Part  
27

今回は、子どもたちに笑顔を届けているスマイル・マーケットのお二人に、活動への思いをお聞きしました。

## 「子どもたちは、未来の財産」

たか はし ち え  
**高橋 千枝さん**(写真中央)

Chie Tkahashi

◆プロフィール

保育園に勤務。転勤のため退職。11年間のブランクを経て、地元に戻り、再び保育園勤務。絵本の読み聞かせグループに1年間活動後、平成25年スマイル・マーケットを設立。

たか もり ま り こ  
**高森 真里子さん**(写真右)

Motoko Takeda

◆プロフィール

市内の幼稚園に6年間勤務後退職。平成21年より子育てアドバイザーとして、児童館で活動しながら、絵本の読み聞かせグループに参加。平成25年スマイル・マーケットを設立。

【聞き手】地域交流まちづくりセンター センター長 丸藤 競(まるふじきそお) (写真左)



高 橋 .. 子どもたちと楽しく触れ合いたいという気持ちを大切にしながら、一人でやっています。対話など楽しい時間をつくり、笑顔で終わるよう絵本の読み聞かせ以外にもいろんな遊びを入れています。

丸 藤 .. いつから活動を始めたのですか？

高 森 .. 24年にお試しとして始め、本格的には25年からです。一人とも保育士や幼稚園の先生でした。子どもの様子は見分かるので、活動しやすかったです。

高 橋 .. 「子どもが好き。笑顔が見たい」という思いで共通し、阿吽の呼吸でやっています。

丸 藤 .. 事前の準備が大変そうですね。持ち時間の30分を子どもたちにいかに集中して楽しんでもらうか、を考えるのに時間をかけました。

高 森 .. 大きな本が出てきたり、タマゴがヒヨコに変わったりしていました。

丸 藤 .. ほとんど手作りです。子どもにも先生にも参加してもらいました。

高 森 .. ほんとうに手作りです。子どもたちが物凄く楽しんでいましたね」

丸 藤 .. 活動を見せてもらいました。子どもたちが物凄く楽しんでいましたね。

高 橋 .. お鍋にカレーをつくるやつは、とても楽しかったです。

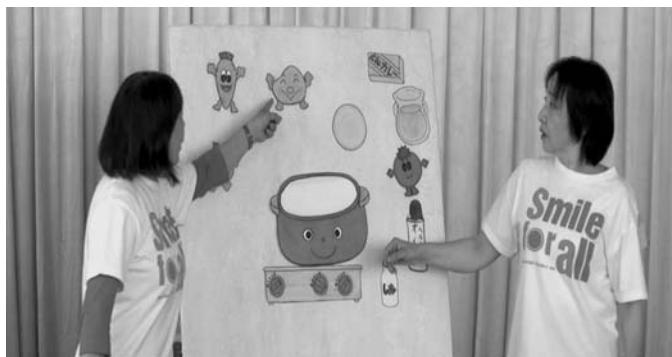
丸 藤 .. 布に具材やお鍋の絵を貼っていきます。鍋の位置をちょっと変えると強火や弱火が表現できますし、蓋をとるとカレーが出来上がってるようになります。

丸 藤 .. 子供たちはノリノリで観ていますね。

高 橋 .. 漆黒です。でも「静かにして」とは一度も言ったことがないんですよ。騒がすだけ騒がせておいて黙っていると、「次は何やるんだろう?」と瞬シンとなる。その瞬間に「次はね」って(笑)



幼稚園などで活動中



活動の様子

高森：駆け引きですかよね。押したり、引いたり。必ず二人でリハーサルをやっています。

小さな時に受けた感動は、残っています。「つむねないかと思つています。「つむねないかと思つています」と保護者の方から言

われると嬉しいです。

高橋：子どもは家に帰つて楽しいことは話すし、怒られたことは絶対に話さないから(笑)

まあ、大人むけの話(笑)。言つてくれるとうれしいとはそれだけ楽しかったのかなあと。今年卒園した男の子が、「また幼稚園に来ていい? もう一回

観たいー」つい言つてくれたのが何より嬉しかつたです。

丸藤：子どもの成長を感じる時はあるよつになればいいなと思

高橋：4月は大変です。慣れてないし、泣いている子もいます。

高森：それが翌年の3月になると、聞き上手になつてます。吸収力もすぐです。

高橋：成長を見られて、パワーをもつてます。

丸藤：昔の子じわといの子どもは違いますか?

高森：本質的には今の子も昔の子も変わらないと思います。ただ、成長していく環境があまりにも違うので、それが影響して打たれ弱くなつてるように思います。

高橋：テレビとかゲームとかスマホとかの機械は一方的だし、お母さんと子どもとの会話も全然足りなくなつてます。

高森：受動的だと思うんですよ。自分の頭で考えて自分で行動していくつて、すごく大事なことじゃないですか。それが大人になつた時に光つてくる。子どもと言葉のキャッチボールをしてつても、言えなつ子はモジモジしてくるのがよく分かります。

だから、せめて私たちが行ってる持ち時間の最後には、みんなが声をだしてやりとりができるよつになればいいなと思つてます。

丸藤：子どもは未来の財産です。地域全体で大事にしていかないと。少しでもそのお役にたちたいです。

高橋：自分達の中だけの環境になると人とのふれ合い、言葉のキヤツチボールのやりとりを楽しむことが少ない。実はお母さんもそうなのではないでしょうか?

丸藤：親御さんのアドバイスを。

高森：子どもとの「ママ/パパ」をもつと密接に持つてやつりますね。ボーッとテレビを見つめる10分間を子どもと会話の時間にするとか、寝る前に本を読んであげるとか。

高橋：子どもはお母さんとの接触が欲しくて、何度も本を読んでもらつたがります。寂しい時は、膝において抱きしめればいいんです。

高森：今思えれば、子育てってなんて貴重な時間なんだつて感じます。その時間を、親も子も大切にしてもらつたくなります。

高橋：これから活動への感じは? 丸藤：メンバーを増やし、内容もマンネリ化しないように挑戦していきたいです。

高森：活動の幅を広げていきたいし、

頭を柔軟にして子どもたちに対応していきたいです。

丸藤：子どもの数が減つてます。

高森：子どもは未来の財産です。地域全体で大事にしていかないと。少しでもそのお役にたちたいです。

終

